

愛の質的研究

清野雅子(千葉)・河野直子(三重)

要旨: アドレリアンは、愛をどういうものとして考えているのか。ドライカースは「愛は感情ではなくて関係だ」と書いている。そこで、人間の「コミュニケーション行動」を、身体的行為、言語的行為の2種類に分けて考えることにした。そして、その身体的、言語的、コミュニケーション行動があるとき、人は相手に愛されている、あるいは相手を愛していると感じるかを「夫婦間」「親子間」ごとに、聞き取り調査でのエピソードをもとに、探ってみた。

今回の研究の主たる目的は 1) どういう場合に相互間で愛情を感じるかについての特性の抽出をすること、2) そのために聞き取り調査に基づく分析の方法を開発することである。その方法とは、聴きとったままのテキストに A:身体的行為か言語的行為か B:楽しいことか、仕事か、困難なことか C:一方だけがする行為か、双方がする行為か、という3つのラティス(格子)をかけて見るということである。それを樹のグラフを使い各インフォーマントの語りの特性を抽出することは、適切な方法であることを確認できた。今後もこの方法も用いてインフォーマントのデータを増やし、男女間の違い、トラブルが起る場合と愛を感じる時の注目の仕方の違い、など更に研究を進めていきたい。

キーワード: アドラー心理学、理論、質的研究、愛、夫婦、親子

1. はじめに

「愛」という単語について、アンズバッハーは、「Social Interest」という概念^[1]の中で、「アドラーは、性愛という意味で使う時を除いて、一般的に愛という用語を使うことを避けたが、明らかに共同体感覚という概念のもとに、さまざまな形態の愛すべてを包含させていた」と述べている。たしかに、「愛」という単語は、たいへん曖昧で、共同体感覚(つまり、これは2人にとってどういうことだろう。2人のしあわせのために私はなにをすればいいのだろう)と関係する場合もあるし、関係しない場合もある。また、かえって相反する場合もある。そこで、本研究では、共同体感覚にあふれた夫婦関係や親子関係がどういうものであるかを考えてみたい。

ドライカースは「愛は感情ではなくて関係だ」^[2]と書いている。そこで、人間の「コミュニケーション行動」を、身体的行為、言語的行為の2種類に分けて考えることにした。そして、その身体的、言語的、コミュニケーション行動があるとき、人は相手に愛されている、あるいは相手を愛している、と感じるかについて調べてみることにした。調べるにあたって、たとえば質問紙を使って、アンケート形式で「次のどういう場合に愛情を感じますか」という、○×式で答えてもらうというような方法もあるが、すでに尾中映里がアドラー心理学の受容に関して使った方法と同じ方法^[3]を用いて、聞き取り調査によることにした。

本研究の主な目的は、二つある。一つ目は、平均的な日本人アドレリアン夫婦や親子が、どう

いう場合に相互の間に愛情を感じるかについての特性の抽出をすること。二つ目は、そのために、聞き取り調査に基づく質的分析の方法を開発することだ。これら二つの目的を達成するための方法として、聴き取ったままのテキストに、何らかのラティス(格子)をかけて、その人の「語り」の特徴を抽出し、最終的にはわかりやすいグラフにすることを考えた。そのグラフから、インフォーマントの個性が的確に描写できているかどうかを振り返ってみて、もし個性が的確に描写できているようであれば、ラティスが適切なものであると考えられる。今回の研究では、適切なラティスを探し出すことが必要だと考えた。もし適切なラティスを見つけ出すことができれば、全文章を文字に書かなくても、必要な部分だけを取り出して、インフォーマントの個性を記述することができるようになるだろうと考える。それについては、次回以後に研究したい。

2. 研究方法

2-1 夫婦間

今回は予備的研究として、結婚して5年以上の、9人のインフォーマント(うち女性5人、男性4人)から聞き取りをおこなった。

具体的には、以下のような内容の5つの質問に答えてもらった。

- 1) 「夫(妻)さんから、愛されているな~とか、大切にされているな~とか、思いやってもらっているな~とか、そんな風を感じる時があると思うのですが、どんな時ですか?」、
- 2) 「こんどは逆に、〇〇さんが、夫(妻)さんを、愛しているな~、大切だな~とか、そういう風を感じる時があると思うのですが、どんな時ですか?」
- 3) 「つぎに、昔にかえっていただいて、初めて夫(妻)さんと出会われたときの、場面とか出来事を、さしつかえなければ、お話していただけますか?」
- 4) 「では、この人と付き合いたいな~、付き合おう~と思った、場面とか出来事をお話していただけますか?」、
- 5) 「最後に、この人と結婚しよう~、一緒にやっ払いこうと決めた、場面とか出来事をお話していただけますか?」

3番目のはじめて出会ったとき以下の質問は、ジヴィット・アブラムソン(Zivit Abramson)の示唆による。これによって夫婦の「初期契約」が明らかになることを期待している。インタビューを録音させてもらい、それを文字におこしたものを研究材料にした。

2-2 親子間

今回は予備的研究として9人のインフォーマント(うち女性8人、男性1人)から個別に聞き取りを行った。子どもの年齢をある程度そろえるために小中学生のお子さんを持つ母親父親であることを条件にした。子どもを複数持っている場合にはその中のひとりについて質問した。子どもの年齢は、8歳から13歳、女の子が5人、男の子が4人だった。

以下のような内容の4つの質問をした。

- 1) 「〇〇さんのことをすごく大切に思っているなあとか、私この子のこと大好きだなあとか

感じる事があるとおもうんですが、どんな時ですか？」

2) 「では逆に〇〇さんがこの子って私のことだいすきだろうな、大切に思ってくれている、って感じる時はどんな時ですか？」

3) 「〇〇さんが生まれてきた時、初めてご対面したときでもいいのですが、どんなふうでしたか？」

4) 「生まれてから小学校へ入るくらいまでで、印象にのこっている事をお話していただけますか？」

当初は、「〇〇さんのことを愛しているなあ、と感じる時はどんな時ですか？」と「愛している」という言葉で質問してみたが、インタビューを受ける側にとっては、とても重みのある言葉のように感じられたようだったので、私たち日本人になじみのある言葉、「大切に思っている」「大好き」「かわいいと思う」などを使って質問をすることにした。

つまり現在のよいエピソードと、子どもが小さかった頃の早期回想をきいた。そこから幼少期における相互関係と思春期における相互関係に共通する「基本的な構え方」**basic attitude** が明らかになることを期待した。インタビューを録音し、それを文字におこしたものを研究材料とし、分析することにした。

3. 分析法

文字に起こした全文章から、どういう場合に相手を愛している、あるいは相手に愛されていると感じるかを具体的に述べた文について、以下のABC 3つの基準で評価した。

A：身体的行為（身）か言語的行為（口）か。

B：楽しいこと（レベル1）か、仕事（レベル2）か、困難なこと（レベル3）か。

C：一方だけが行為するか（単）、双方が行為するか（双）。

これら、ABCのラティス(格子)をかけて、各インフォーマントの語りの特徴を抽出した。【図1】

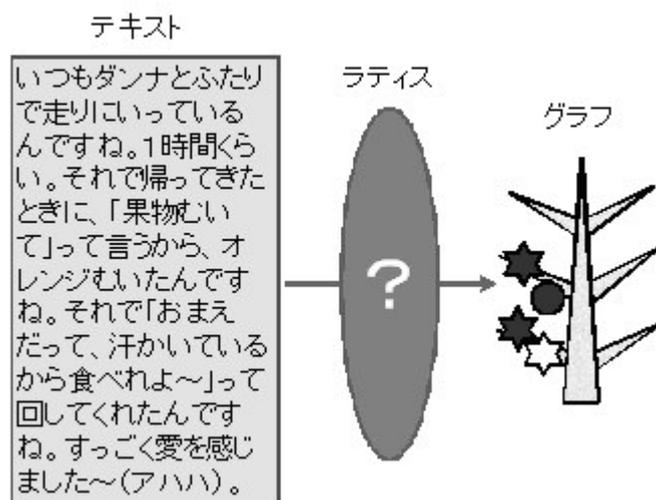


図1

補足だが、Aの身体的行為(身)か言語的行為(口)かの区別について、「身体的行為」は、話をしてもしなくても行為する場合、「言語的行為」は、話をするだけで行為のともなわない場合をいう。

具体的に説明する。

<Bさん 女性 50代>

いつもダンナとふたりで走りにいっているんですね。1時間くらい。それで帰ってきたときに、「果物むいて」って言うから、オレンジむいたんですね。それで「おまえだって、汗かいているから食べれよ～」って回してくれたんですね。すっごく愛を感じました～(アハハ)

この文は、夫と一緒に走りに行き、帰ってからオレンジをいっしょに食べる、という、全体として、身体的行為である。楽しいこと(レベル1)で、双方向で行為している。つまり「身1双」である。

<Aさん 男性 40代>

会社から帰ってきて、駅で電話かけて、「今日は、何か、買い物あるかい？」って聞いたり、「じゃあ、これとこれを買ってきて」って言われて、買ってかえったりとか。

これは、買い物をするという行為をめぐって、全体として、「身体的行為(身)」である。そして、買い物は「仕事(レベル2)」。そして「Aさんが妻のために動いてあげるので、「一方だけの行為(単方向)」」。つまり「身2単」として扱う。

このように、相手を愛しているとき、あるいは相手に愛されているときについて、それぞれのインフォーマントが語った文を、評価した。

4. 結果

4-1 夫婦間

9人のインフォーマント全員の語りについて、それぞれABCのラティスをかけて、特徴を抽出した。集計表をもとに、9名のインフォーマントの特徴を9本の樹の図にまとめた。

- 男性は横縞模様の樹、女性は点模様の樹
- 下の枝から、レベル1「楽しいこと」、まん中の枝 レベル2「仕事」、上の枝、レベル3「困難なこと」
- 左側の枝が一方だけが行為する「単」、右側の枝が双方が行為する「双」
- 花は「言語的行為」、実は「身体的行為」
- 黒の花と実は「現在」、白の花と実は「過去」、とした。

結果として、次のような傾向がみられた。

結果① 男性は身体的行為に注目し、女性は言語的行為に注目する傾向が見られる。【図2】

①男性は「身体的行為」女性は「言語的行為」に注目する傾向

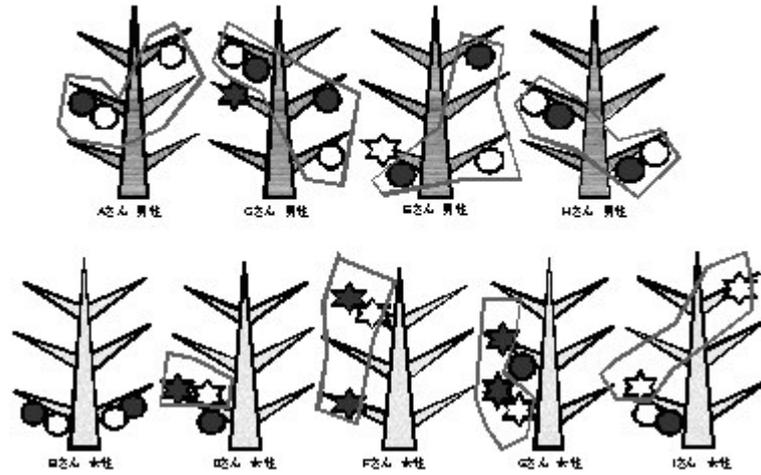


図 2

結果② 女性は、「楽しいこと（レベル1）」に注目し、男性は、「仕事（レベル2）あるいは「困難なこと（レベル3）」に注目する傾向が見られる。【図 3】

②女性はレベル1、男性はレベル2以上に注目する傾向

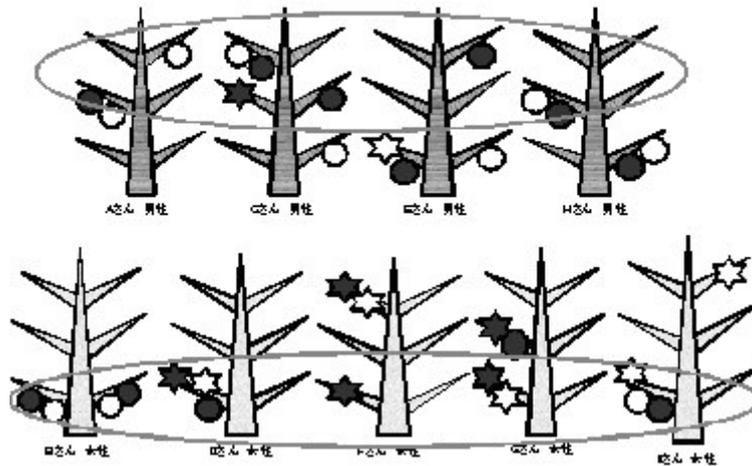


図 3

結果③ 男性は、「双方向の行為」に注目する傾向が見られる。【図4】

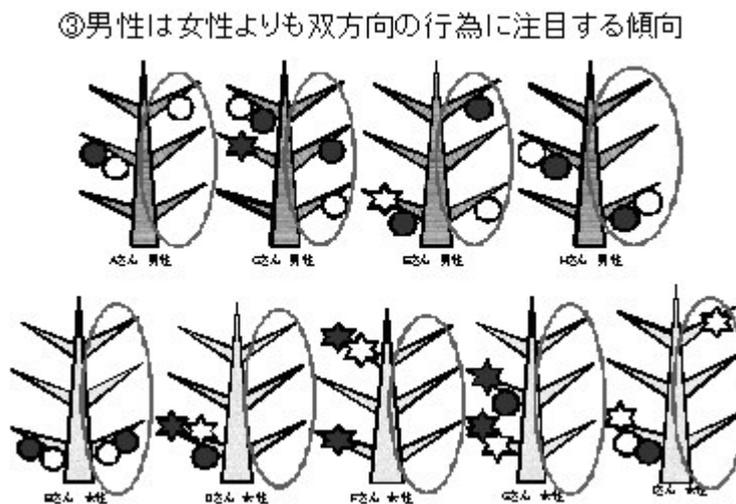


図4

結果④ 結婚当初と現在とは、同じパターンで動いている傾向が見られる。【図5】

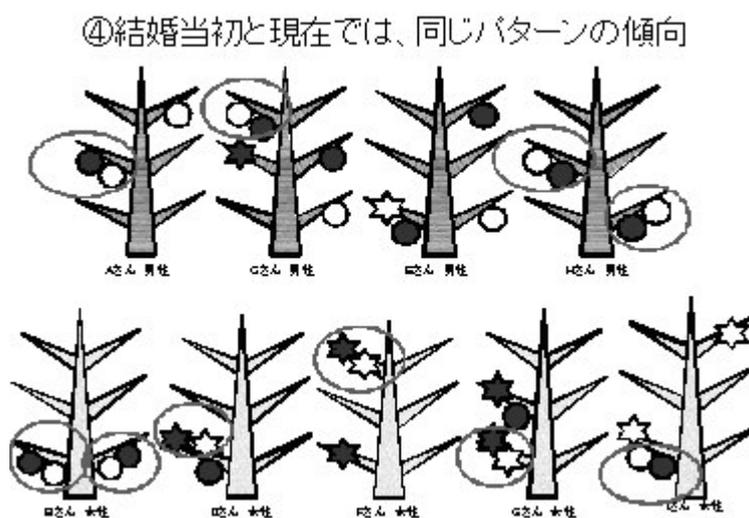


図5

4-2 親子間

夫婦間と同様に、ABCのラティス(格子)をかけて、各インフォーマントの語り口の特徴を抽出した。集計表をもとに、9名のインフォーマントの特徴を樹の図にまとめた。

結果① レベル2以上では、言語的行為よりも身体的行為が評価されており、むしろ親に相談しないで自力で問題を解決する姿に愛情を感じている事例が多い。【図6】

1. レベル2以上では、言語的行為よりも身体的行為が評価されており、むしろ親に相談しないで自力で問題を解決する姿に愛情を感じている事例が多い。

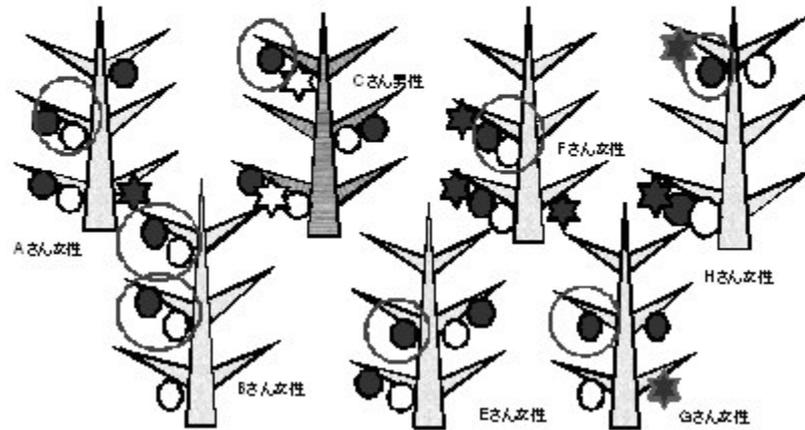


図 6

結果② 子どもが小さい時と現在では、同じパターンの傾向が見られる。同じ傾向の全ては言語的行為ではなく、「身体的行為」である。【図 7】

2. 子どもが小さい時と現在で「身体的行為」に同じ傾向

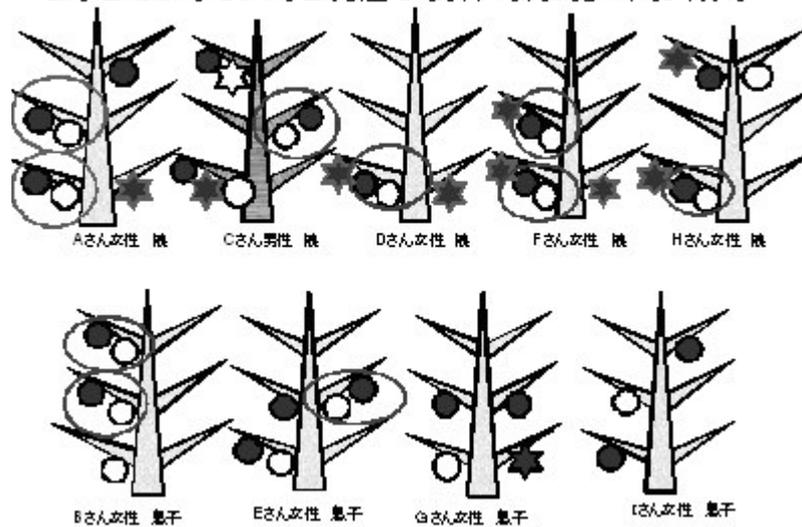


図 7

結果③ 現在、過去のいずれか、また両方で全員がレベル1（楽しいこと）に注目している。【図 8】

3. 全員が現在 過去のいずれか、また両方、レベル1 (楽しいこと) に注目している

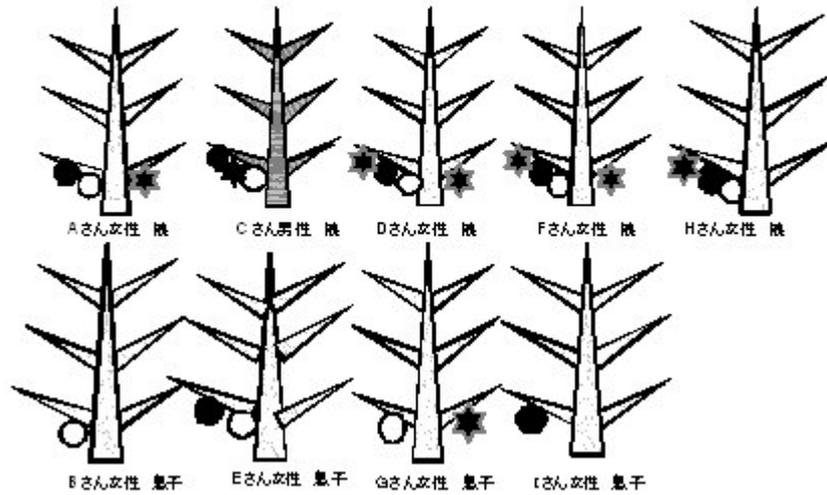


図 8

結果④ 子どもが女の子である場合に、言語的行為に対しての注目が多い傾向が見られる。【図 9】

4. 子どもが女の子の場合、言語的行為に注目が多い傾向

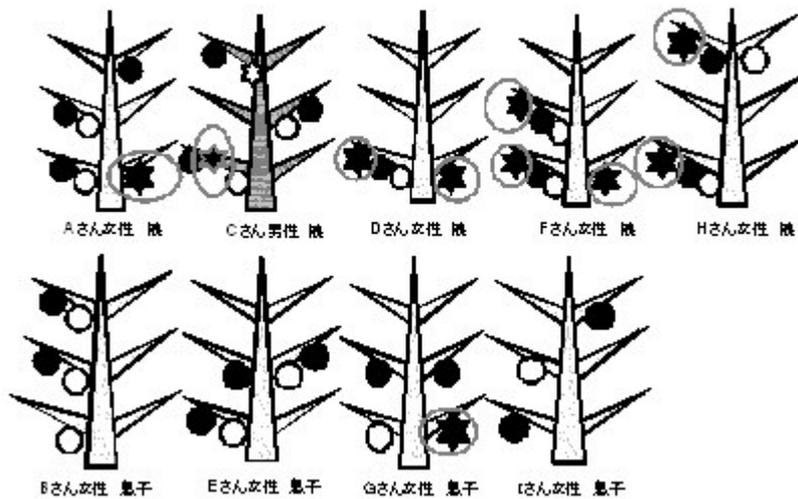


図 9

以上の4点が、結果としてあげられる。

5. 考察

5-1 夫婦間

夫婦間の結果について具体的に述べる。

結果① 男性は身体的行為に注目し、女性は言語的行為に注目する傾向が見られたことについて。

<Eさん 男性 50代> 【図 10】

そこでダンスクラブっていうの、ダンスするところ、ほらチークっていうの、今も言うのかな、やるんだけど、いきなりボクの横っ腹つかまえて、「えー！脂肪すごい！」とかなんとか、ふふふ、そんなやりとりをして、おちゃめなところある、おもしろいところあるなーってところから、気になってて、

身体的行為に注目する例として、Eさんは、「身体的行為」のダンスをおしゃべりしながら(レベル1)、双方向で楽しむことに注目しているという特徴がある。(身1双)

一方、女性の場合は、男性全員が大きな割合で「身体的行為」に注目するほどではないが、男性よりも女性の方が「言語的行為」に多く注目して語る傾向がある。

Eさん男性 50代

そこでダンスクラブっていうの、ダンスするところ、ほらチークっていうの、今も言うのかな、やるんだけど、いきなりボクの横っ腹つかまえて、「えー！脂肪すごい！」とかなんとか、ふふふ、そんなやりとりをして、おちゃめなところある、おもしろいところあるなーってところから、気になってて、
「身1双」

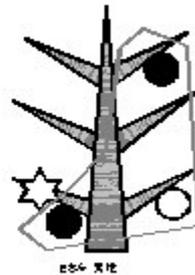


図 10

<Fさん 女性 30代> 【図 11】

その時はけっこう正面から、「なんかあったの？」って聞いてくれて、それで全部しゃべったら、「じゃあ僕がなんとかしてあげるよ」って、なんだろう、なにも自分からは言わずに、わたしから聞いたあとに、その一言だけ言って、「大丈夫だよ」って言ってくれたときに、思わず泣いちゃいましたね。

100%言語的行為に注目しているFさんは、彼女が困っていた出来事に対して、夫が「じゃあ僕がなんとかしてあげる」「大丈夫だよ」と、彼女を助ける言葉を言ってくれたときの、夫の言語的行為に注目している。(口3単)

「身体的行為」は、話をしてもしなくても行為することであるので、「話し合い」が不足した場合に、夫婦間でのトラブルとなる可能性が考えられる。また、言語的行為は、話をするだけで行為がともなわずに、夫婦間のトラブルとなる場合があるかもしれないと考えられる。

Fさん女性 30代

その時はけっこう正面から、「なんかあったの？」って聞いてくれて、それで全部しゃべったら、「じゃあ僕がなんとかしてあげるよ」って。なんだろうなにも自分からは言わずに、わたしから聞いたあとにその一言だけ言って、「大丈夫だよ」って言ってくれたときに、思わず泣いちゃいましたね。
「口3単」



図 11

結果② 女性は「楽しいこと」(レベル1)に注目し、男性は、レベル2以上、つまり「仕事」あるいは「困難なこと」に注目する傾向が見られたことについて、

レベル1の「楽しいこと」に注目している女性の例として、<Iさん 女性 40代>の場合。

【図 12】

<Iさん 女性 40代>

くだらないことを言って、笑ってもらおうようにとか、おどけるみたいなことして、踊ってみせたり、そうすると、すごくくだらないことでも笑ってくれるので、わたしはそれが嬉しくて、けっこうそういうことは時々するんです。

と、夫が笑ってくれたり喜んでくれるような、「楽しいこと」をするときに、愛を感じるという特徴がある。(身1単)

Iさん女性 40代

くだらないことを言って、笑ってもらおうようにとか、おどけるみたいなことして、踊ってみせたり、そうすると、すごくくだらないことでも笑ってくれるので、わたしはそれが嬉しくて、けっこうそういうことは時々するんです。
「身1単」

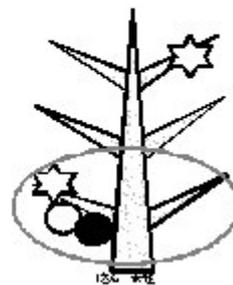


図 12

一方、レベル2以上、「仕事」「困難なこと」に注目してする例として、レベル2以上に100%注目して、愛について語っている<Aさん男性、40代>の場合。【図 13】

<Aさん 男性 40代>

それはね、山手線に乗ったとき、僕は図書館から借りた本を、カバンの中に入れて、忘れてし

まったんですよ。網棚において。新宿駅で電車が帰ってくるのを彼女と一緒に待ってたの。そしたら、彼女すごい目がよくて、「あそこっ！」って。走っている電車から、網棚に置いてある荷物を見つけて、ボクはかけていって、荷物を取って行ったの。これは運命の人だなって思った。

Aさん男性 40代

それはね、山手線に乗った時、僕は図書館から借りた本を、カバンの中に忘れてしまったのですよ。網棚において。新宿駅で電車が帰ってくるのを彼女と一緒に待ってたの。そしたら、彼女すごい目がよくて、「あそこっ！」って。走っている電車から、網棚に置いてある荷物見つけて、僕はかけていって、荷物を取って行ったの。これは運命の人だなって思った。「身3双」



図 13

「困難なこと」を、妻が協力してくれて一緒に解決したときに、愛を感じるという特徴がある。(身3双)

愛を感じる場面で、「楽しいこと」をしたりされたり、言ったり言われたりする事は、インフォーマント9人中8人が注目している。「楽しいこと」は、愛を感じるコミュニケーションにおいて、重要な要素であると推測される。男女で比べると、全体的に、女性は「楽しいこと」に注目して語ることが多く、男性は「仕事」あるいは「困難なこと」により多く注目して、愛を感じる時のこのことを語る傾向がみられるが、トラブルが起る場合、「楽しいこと」「仕事」「困難なこと」への、相手との関心の違いを知っておくと、改善にむかって工夫できるかもしれないと推測される。

結果③ 男性は双方向の行為に注目する傾向が見られたことについて、

「双方向」の男性の例として、たとえば<Hさん 男性 30代>の場合。【図14】

<Hさん 男性 30代>

「紅茶でも飲む？」とか、そんなようなことかな。夜、一緒に飲み物飲んでしゃべったりとか、しゃべらなくても、飲み物飲む習慣になってて、だいたい決まっているんですよ。僕がコーヒーで、彼女が紅茶で。で、どちらともなく、「自分飲むけど、飲む」って言ったりするんですよ。 「飲む？」って言って、僕が作ったりするときもあります。

夜一緒に飲み物を飲んで過ごすという、双方向で身体的行為をすることに注目している。(身1双)

Hさん男性 30代

「紅茶でも飲む?」とか、そんなようなことかな。夜、一緒に飲み物飲んでしゃべったりとか、しゃべらなくても、飲み物を飲む習慣になって、だいたい決まっているんですよ。僕がコーヒーで、彼女が紅茶で。で、どちらともなく、「自分飲むけど、飲む?」って言ったりするんですよ。ね。「飲む?」って言って、僕が作ったりするときもあります。「身1双」

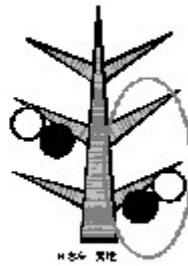


図 14

一方、単方向の例として、<Fさん 女性、40代>の場合。【図 15】

<Fさん 女性 40代>

いつも彼はそうなんですけど、(彼が)自分で(夕食を)作った時は、並べてくれるし、わたしが座ったら出るようにしてくれる。そういうことをしてもらったときに、「ありがとう」というとか、「あ、この料理おいしい」と言うとか、

Dさん女性 40代

いつも彼はそうなんですけど、(彼が)自分で(夕食を)作ったときは並べてくれる、わたしが座ったら出るようにしてくれる。「身1単」

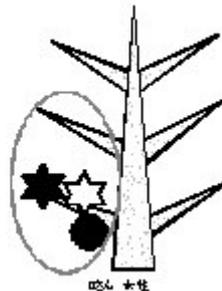


図 15

夫が夕食を、彼女がすぐに食べることができるようにしてくれた行為について、彼女は言葉で夫に感謝を伝えたことに、愛を感じている。(口1単)

男性は4名とも全員、右側の枝、双方向な行為、それも双方向な身体的行為に注目する傾向がみられた。「双方向」の場合、全員が、文の中で「一緒に」とか「ふたりで」、という表現を使っているが特徴的だった。「単方向」の場合は、関係の中で、相手が自分にしてくれる行為、あるいは自分が相手にしてあげる行為に、それぞれに分けて注目して語る傾向が見られた。

アンスバッハーによれば、「人は、『よい仕事仲間、他のすべての人々の友人、そして愛と結婚の真のパートナー』とならなければならない。これらのタスクをうまくできるかどうかを予想するのに最も適しているのは、協力のテストであろう。アドラーは、ドイツのある地方の風習を例として引用している。その風習とは、婚約したカップルに二つの持ち手である鋸(ノコギリ)と一緒に丸太を切らせるというものである」^[4]「このように相互の関心の中で一緒にワークすることを指すために、協働作業(synergy シナジー)^[5]という用語がときどき使われる。」と語っている。

調べたテキストが短いので、確定的なことは言えないが、アドラー心理学の共同体感覚の視点から考えると、夫婦間の場合は、「双方向」への注目もあるほうが、より協働作業ができやすい、柔軟性のある関係を育てることができるのではと考えられる。また、「楽しいこと(レベル1)」

への注目は関係のベースだと考えられるが、「仕事(レベル2)」「困難なこと(レベル3)」への注目もあったほうが、人生のタスクに、より建設的にむきあい解決していくことが可能になるのではと考える。

結果④ 結婚当初と現在とは、同じパターンで動いている傾向が見られたことについて

たとえば、<Aさん 男性 40代>は、現在と結婚当初ともに、「身2単」の傾向がみられ、<Bさん 女性 50代>は、現在と結婚当初ともに、「身1単」「身1双」の傾向がみられる。夫婦間の場合、全員において、現在・結婚当初ともに、それぞれ共通の傾向がみられ、ライフスタイルは変わらないという印象がある。この樹の図は、視覚的にライフスタイルの傾向を知ることができ、関係の改善に役立つことが期待できる。

5-2 親子間

結果① レベル2以上では、言語的行為よりも身体的行為が評価されており、むしろ親に相談しないで自力で問題を解決する姿に愛情を感じていることについて。

<Hさん 女性 40代 長女10歳>【図16】

夏休みの宿題がなかなかかどらなくて、習い事と家族の用事、旅行といろいろなことが重なるので私としてはできる日は限られているのでそれはカレンダーで確認しているのですが、なかなかかどらない。いつまで経っても終わらない。大丈夫かなと言ってしまって、戦いになったので、じゃもう言わないからって言って、しばらくみていたら、自分のやり方で自分のできるときに、おわらせようと努力していて、まだ完璧でないんですけど（アーこの子は自分のやり方で自分で考えてやるんだな）ってことがわかったときに、めちゃくちゃかわいって思いました。

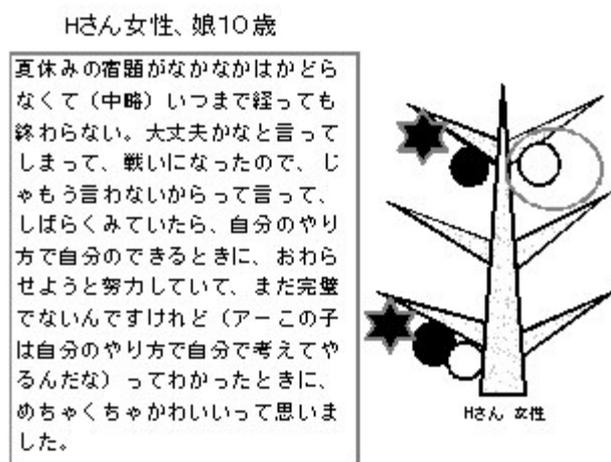


図16

これは、夏休みの宿題という困難なこと(レベル3)を、長女さんが一人で解決しようと、取り組んでいることに、愛おしさを感じている。(身3単)

他のインフォーマントも自分の気がつかない間に子どもが成長している姿に注目している。子どもというのは、乳を吸う、泣くという新生児から日々成長して様々のことができるようになっていく。飛躍的に急にできることは少ないと思うが、例えば、ボタンをはめることにしても、毎日同じことを繰り返し教えながら、一緒にやりながら、できる日があっても、次の日はできなか

ったり、一歩進んで二歩下がる、状況が続く。しかし、気がついたらできるようになっていた、自立が一歩進んだ、ということは、子育ての経験のある方は体験されていると思う。幼児に限らず、ひとつ教えたら、きがついたら、できるようになっていた、応用力がついた、とでもいうのだろうか。成長を感じる、このような場合に「愛」を感じていると考える。

また親子間で、子どもが一人で困難を解決しようとしていること、に注目があつたのは、「所有」の問題と関係するように思われる。香川三六は、「ほんもの(?)の愛とそうでないものを区別して」、「ほんもの(?)の愛、共同体感覚の=愛の愛は『愛』とカッコつきで表わす」とし、「母親はえてして子どもを自分の所有物か、自分の延長のように考える人がいるように思う。10カ月もおなかにいたし、乳児のときには一体感が強いからであろうか。ものや延長と考えるのは一種のナルシズムといえる。そういう人には共感ができない。共感とは、他者の感じていることを感じる能力、相手のおかれている状況・考え方・関心に対等の人間として関心をもつことである。共感できない『愛』なぞありえない。子どもを全く別の人格を持った人間、自分とは全く別のアイデンティティの持主であることを認めないという、信頼もない。自己受容も信頼感もないから『愛』ではない。」と述べている^[6]。

今回の親子間のインフォーマントは、アドラー心理学の子育てを学び、「子どもを自分の所有物と考えないこと」を、より意識した注目の仕方をしていると考える。

結果② 子どもが小さい時と現在では、同じパターンの傾向が見られることについて。

そのすべてが言語的行為ではなく、身体的行為である。樹の図の○でくくってある所は、子どもが小さい時と現在で同じ傾向が見られた箇所である。全て身体的行為である。

子どもが小さい時というのは、生まれたときのことや、小学校へ入学する前のころ、こどもの年齢にすると0歳から6歳にあたる。その頃の子どもの特性として言語活動がまだまだ未発達の状態である。親は子どもに向かって、言語的行為を使ってコミュニケーションを取ってはいるが、子どもからの言語的行為はなかなか難しいこともあり、そのことを「印象的だった」と話す親が少ないのではないかと考える。そういう状況の中で、言語的行為の領域では自分の「型」に規制がかかり、自分の「型」がでにくい状態であった、と考える。

結果③ 現在、過去のいずれか、また両方に全員がレベル1(楽しいこと)に注目している、ことについて。

親子間では全てのインフォーマントがレベル1に注目している。これはどうやら子どもの誕生に秘密があるようである。

<Cさん 男性 40代 娘12歳>は、娘さんの誕生の話を次のように語っている。【図17】

<Cさん 男性 40代 娘12歳>

生まれた頃、仕事がいそがしかったんだけど、立ち合い出産だったんで、病院へ行っているいろいろあったんですよ。奥さん陣痛で苦しがついてもう一人知らない人も陣痛で、こっち世話してあっち世話して。そして陣痛って正確なんですよね。5、4、3、2、1、きたっ!みたいな。だから生まれてきたときはあ〜生まれてきたかって感じだったんだけど。あとはちいさいなあ、出たか、みたいな淡々とした感じかな。

忙しい思いもしながら、二度と忘れない、娘さんの誕生という喜びが表れていると思う。

親子間の場合も、夫婦間同様「楽しいこと(レベル1)」への注目が、関係のベースだと考えら

れる。

○さん男性、娘12歳

生まれた頃、仕事がいそがしかったんだけど、立ち合い出産だったんで、病院へ行っているうらあったんですよ。
奥さん陣痛で苦しがついていても一人知らない人も陣痛で、こっち世話してあっち世話して。そして陣痛って正確なんですよね。5、4、3、2、1、またっ！みたいな。
だから生まれてきたときはあ？生まれてきたかかって感じだったんだけど。
あとはちいさいなあ、出たか、みたいな淡々とした感じかな

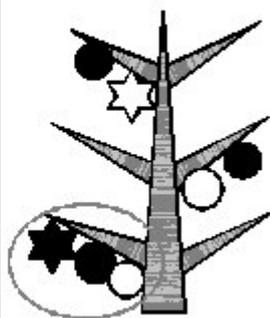


図 17

結果④ 子どもが女の子である場合に、言語的行為に対する注目が多傾向が見られることについて。

お子さんが女の子のインフォーマントの5人中5人、100%が、言語的行為に注目している。これはインフォーマントが男性であっても同様である。息子さんを持つインフォーマントで言語的行為に注目していたのはひとりでGさんのみである。

子どもが小さい頃は、言語が未発達な状態ではあるが、子どもが成長するにつれもちろん、男女とも言語は発達していく。その発達子どもが娘であれば娘側も「言語的行為」に注目するようになる、のかもしれない。そして、母と娘の組み合わせならお互いの相乗効果がでているのではないだろうか。子どもが息子である場合は、息子とのいい関係を保っていくために、時間をかけて息子との関係のあり方、距離の取り方を変えていくのではないかと考える。

年齢、男女の身体的な違い、生育歴や、出身家族の家族の雰囲気や家族価値の違い、そんな違いのある夫婦・親子が、必要なときに「二つの持ち手である鋸(ノコギリ)で一緒に丸太を切る」をして、全体的に苦楽をともにして暮らしておれば、共同体感覚という『愛』のある、幸福な関係といえるのではないだろうか。そのような夫婦・家族の姿は、次世代へもよい影響が与えらるかと考える。

6. おわりに

以上、今回の予備的研究の目的であった、聴き取ったままのテキストに、ABCのラティス(格子)をかけて、インフォーマントの「語り」の特徴を抽出し、樹のグラフにするという研究方法は、夫婦間・親子間ともに見通しがついた。最後に、今後の研究の課題を挙げておきたい。

- 男性のインフォーマントのデータを増やして、男女間の違いがわかるような調査を続ける。
- インフォーマントと、子ども男女の組み合わせで、注目の仕方に違いがでるかどうか。
- 同じインフォーマントでの「型」のありようは、夫婦間のときと、親子間で違いがでるかどうか。

うか。

- 愛を感じる時だけでなく、トラブルが起る場合も聴きとると、注目の仕方に違いがでるかどうか。
- 早期回想を聴きとると、ライフスタイルとの関連がより明確になるかどうか。

謝辞

快くインタビューをお引き受けくださったインフォーマントのみなさまに心から感謝申し上げます。また、ご指導くださった野田先生に篤く感謝申し上げます。そして、本研究を温かくささえてくださった地元の仲間をはじめとするすべての方々に感謝申し上げます。

引用文献

- [1] ハインツ・アンスバッハー、田中貴子他訳：Social Interest という概念，アドレリアン 5(2)，p.132,1992
- [2] Dreikurs Saying
- [3] 尾中映里：語られたアドラー心理学Ⅱ，アドレリアン 25(1),p3-17,2011
- [4] 前掲[1],p.139
- [5] 前掲[1],p.139
- [6] 香川三六：共同体感覚=愛の「愛」と「関係」ということについて，アドレリアン 6(2)，p96, 1993

参考文献

尾中映里：語られたアドラー心理学，アドレリアン 23(2),p75-93,2010
エーリッヒ・フロム：愛するということ(The Art of Loving)，紀伊国屋書店

更新履歴

2018年11月20日 アドレリアン掲載号より転載